

北タイの森を守る人を支える～NGO：Linkの活動から～

5月26日 事前講義

講師：木村茂

キーワード：環境、組織、北タイ、水、農業

タイ・フィールドスクールの事前講義の1回目は、2010年5月26日に行われた。内容は環境保護NGO、Linkの木村茂代表の講演であった。Linkという組織はこのたびのタイ・フィールドスクールの多くの日程を占める北タイの少数民族が居住する山村へのスタディーツアーを企画している団体である。

講演ではまず、北タイの森林がいかに関わっているかということが報告された。これを通して、北タイが首都バンコクへ流れていく川の水源のほとんどを担っているということが理解できた。そのうえで、北タイの森林を守るというLinkの努めは対象としている山村の生活のみを支えるのではなく、タイ全体の環境に関わる活動であるということが説明された。

つぎに、支援を行っている村における具体的な活動にかんして報告がなされた。まず、村の国立公園化に伴う伐採や狩猟採集の禁止に対して生活を守るために立ち上がった村人の活動に関してである。このような村人たちは、共有林というものをもうけて自身の生活のために利用できる森を法制化してもらおうと活動している。そのような村人の活動をLinkは主に2つの点でサポートしている。1点目は、GPSなどの機材の提供によって共有林であるべき区域を客観的に確定していく作業である。これをもとに地図を作成し、政府機関への交渉に利用している。2点目は村の歴史をまとめていくことである。どの時期に森や村にどのようなことが起こり、どのようなものが村にもたらされたかといったことをまとめて冊子にするというものである。この冊子に関しても、出来事を客観的にし、政府機関との交渉に役立たせるためであると説明された。

二つ目に、ミカン農園のプランテーション栽培にかんする問題も取りあげられた。広大なミカン農園の出現により、河川の農薬汚染が著しくなっており、その流域の人々の生活が変化してきているということが報告された。Linkはそこでの人々の活動にも関わっている。そこでは、村人が有機農法の普及を促進させる活動などをおこなっている。

最後に、Linkが支援の対象としている村の草木染め製品をフェア・トレードで販売しているという説明を受けた。ランチョンマット、カバン、シュシュ、ペンケースなどのサンプルを実際に見ることができた。

(文責：井上貴智)